

めぐみ

2022 年 7・8月号

学校法人 聖公会北関東学園
初 雁 幼 稚 園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

北海道で過ごした一年間

ちゅうりっぷ組担任 松井 彩乃



私は中学生の頃、1年間だけ北海道に住んでいたことがあります。転勤族ではありましたが、それまでの埼玉歴が長かったので、ここまで大きく動くことが初めてでした。当時私は中学2年生。今まで自分の学年に転校生が来るとドキドキして、そのクラスまで友だちと覗きに行き、楽しいことが始まりそうな期待がありましたが、その「転校生」にいざ自分になると思うと、受け入れてもらえるか不安で、緊張して心が落ち着かなかったことをよく覚えています。

通っていた中学はジャージ登校が基本で、式典の時のみ制服で登校しました。制服がセーラー服で可愛かったのですが、私は制服を着たかったのですが、雪が11月から降り始め5月まで残っている北海道。真冬に制服は確かに厳しいと感じ、ジャージにモコモコのムートンブーツを履いて、ヒートテックを重ねてダウンを着込み、フードを被りながらえっさえっさと歩いて登校していました。中にこんなに着込んでいたのは私くらいで、

道民の人は意外と薄着で「本当にそれで寒くないの!？」と何度も聞いてしまうほどでした。冬は通学の20分間くらい歩くだけで、リュックの上に15センチくらい雪が積もります。はらうだけで雪が落ちるので、雪の日に傘をさしたことはありませんでした。

自分が県外の人間だと最初に痛感したのは始業式の日。初めて撮ったクラスの集合写真は、本当にびっくりする程私の顔だけが黒く、そこで初めて自分の色黒さを感じました。授業中、大雪が降った時、もう嬉しくてワクワクして窓にへばりついて興奮気味に外を眺めていたら「雪でこんなに喜ぶ人いるんだ」と逆にびっくりされました。また、方言にも驚かされました。授業終わりに、友だちに「この紙投げといて」と言われ「投げる?ポイって?」と思いながらも言われた通り投げたら、友だちが私を見て大笑い。その時初めて「投げる」は「捨てる」という意味の方言だと知ったのでした。

数々のギャップがあり、驚くこともたくさんありましたが、北海道ならではの楽しいこともたくさん。冬はスキーの授業があったり、どこからでも満点の星空が見られたり、野生の白鳥やキツネが川や道で見られたり、スーパーで売っている海鮮が関東では想像できないほど安くおいしかったり、そして何より人が温かいです。今は上京している子が多く、関東で当時の友だちと会うこともあります。たった1年間しかいなかったのにその1年間をよく覚えてくれていて、今もこうして仲良くしてくれる友だちがいることに本当に感謝しなければと思います。

夏は涼しくて快適ですが、冬はいろいろなところで「ザ、北海道!」を感じられてよいのではないかと思います。少しずつ世の中も落ち着いてきているので、機会があったらぜひ北海道旅行オススメです!

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

7月「きもちがいいね」

目 標

○夏の自然界に目を向け、心と身体を解放させて遊ぶ

○心を合わせて祈る

学年別のねがい

(1歳) 心満たされて過ごす

(2・満3歳) 身体を元気に動かす

(年少組) 身体を存分に使って遊ぶ

(年中組) 友だちとお互いに思いを出し合いながら過ごす

(年長組) キャンプを通して、友だちや保育者との仲や信頼を深める

8月「いのろう」

目 標

○保育者や友だち、家族とゆったり過ごす

○さまざまな人や環境に出会い、いろいろな経験をする

学年別のねがい

(1歳) 夏の遊びを楽しむ

(2・満3歳) (年少組) 保育者や友だちと夏の遊びを存分に楽しむ

(年中組) 自分とは違う思いに出会い触れる

(年長組) 平和を考え、願い、ともに祈りながら過ごす

今月の聖歌「ひろいそらの」

今月の歌

「アイスクリームのうた」



★予定★

日	曜	行事などの予定
1	金	全体礼拝
2	土	つくし組参観・懇談会 就労家庭保育実施日 幼稚園委員会②
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	7月生まれ誕生会
7	木	連絡係集まり アルミ缶回収
8	金	全体礼拝 ↓
9	土	もも組参観・懇談会 就労家庭保育実施日 新採研④
10	日	
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	幼児部短縮保育開始
15	金	終業式・短縮保育
16	土	就労家庭保育実施日
17	日	
18	月	海の日
19	火	キャンプ準備会・幼児部夏休み
20	水	すみれ組草津キャンプ
21	木	↓
22	金	↓
23	土	就労家庭保育実施日
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	プレイデー・園内研修 職員会議③ ※土曜保育希望なし
28	木	
29	金	
30	土	就労家庭保育実施日 職員会議④ 園内整備・お父さんたちとの交流会
31	日	
8月		
6	土	就労家庭保育実施日 幼児部保護者・教職員交流会
27	土	就労家庭保育実施日 職員会議④ 園内整備・お父さんたちとの交流会
29	月	幼児部始業式・短縮保育
30	火	短縮保育
31	水	8月生まれ誕生会

チャプレンのページ



いちじく

「いちじくの木から教えを学びなさい。
枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる」
(マルコによる福音書 第13章 28節)

日本はよく自然豊かな国と言われます。山国でありながらも多くの収穫が得られる国土を持っています。一方聖書の世界は自然豊かなところとそうでないところがあり、日本以上に気候の影響を受ける地域と言っているでしょう。そのようなこともあって聖書の世界に登場する植物は限られますが、ぶどうとならんでよく登場するのがいちじくです。

聖書の中には、いちじくの木や葉に関する記事が74箇所出てきます。聖書の中で多く登場する存在だと言ってよいでしょう。いちじくは耐寒性があるため氷点下10℃まで耐えることができ、よほどの寒冷地でない限り収穫が可能なことから、周囲が砂漠地帯のエルサレム付近でも栽培されていたのでしょう。いちじくの実実は果実ではなく花で、落葉している時に剪定するのが重要とのこと、また、花芽の付いていない枝の先を切ると、翌年に新枝が出て翌々年の花が増えるそうで、こちらのほうが大切だそうです。今年の収穫よりも、翌年に多くの収穫を得る備えをすることが大切だというわけです。聖書の記者たちは、イエス・キリストがいちじくに例えた神の国の教えを印象深く感じ、多くの箇所にその教えを収録したのでしょう。

聖書の世界では、いちじくの枝がやわらかくなり、葉が伸びるのが夏の訪れのしるしとされていたのです。

私たちは何をもって夏の訪れを知るのでしょうか。梅雨明け、猛暑の始まり、蟬の鳴き声など、多くあると思いますが、聖書の世界では夏の訪れが、神の国が近づいていることを現わすこととして、大切に語り伝えられていたのです。

いちじくは今年の収穫も大切ながら、来年のことも考えた剪定が必要でした。私たちが今なすべきことを知り、その場限りのことでなく、先のことも見据えて歩み続けることが大切であると、いちじくの成長は私たちに語り伝えているのです。

人生は、今を十分大切に生きることと合わせ、先を見据えた目標を持つことが重要です。今だけでなく、先のことも考えて自分の目標を定め、歩んでいかねばならないのです。そのためには、自分とはどういう人間かをよく知らねばなりません。子どもたちには多くの伸びしろがありますが、どんなことが得意であるか、どんな能力を持っているのか、それをよく知ることから、今できること、将来の課題が見えてくるのではないのでしょうか。それを見極めて、将来の自分の目標を見定められる、園生活を過ごしてもらいたいと願います。

幼稚園も夏休みを迎えようとしている頃となりました。暑い夏がすぐそこまで迫っています。皆様の上に神様の豊かな祝福をお祈りいたします。

(チャプレン 鈴木 伸明)

クラスの窓



つくし組

日々成長

6月1日から新しい友だちも加わり、ますます賑やかになりました。「誰かな」と気にしながら遠巻きに様子をうかがってみたり、おもちゃを渡しに行ってみたりとコミュニケーションを取ろうとしている姿はとても微笑ましい光景でした。すっかり友だちの名前を覚え「〇〇ちゃんどーこだ」と尋ねると「ここ！」と指をさして教えてくれます。友だち同士の関わりも日に日に増えています。朝レジャーシートがほしいとリクエストがあり、「じゃあここに」と敷くとその上で男の子、女の子2名でおままごとが始まりました。持っていたカップとカップをカチンと合わせて「かんぱーい」とくすくす笑い合って飲む真似もするようになりました。友だちのことを意識し始め、「自分はこうしたい、でもうまくいかない」という気持ちと葛藤する姿も目にするようになりました。考えに考えた末に保育者を頼りにしてみたり、代わりに違うおもちゃを渡してみたり。一生懸命どうしたらいいのか考えている様子が見られます。うまくいかない時の方が多い年齢で間に入ることの方が多いのですが、入園から3ヶ月、どんどん成長しているのだと日々感じています。

もも組

楽しい、楽しみ、クッキング！

ポンデケージョが翌日のおやつの日、「明日のおやつはみんなでもみもみして作る？」と聞いてみると「作る！」と元気な声が聞こえてきました。そしてクッキング当日。朝から外で遊んでいた子も、「おやつ作るよ」と呼びかけるとすぐに部屋まで戻ってきて、しっかり手を洗い、準備万端。さて、ここからがみんなの出番です。材料の入ったジップロックを二手に分かれてもみもみもみもみ！うどんのように叩いている子もいました。みんなで捏ねながら「おいしくな一れ、おいしくな一れ」と生地に声を掛けたり、「ジャムおじさんみたいだね」とかわいいうちも聞こえてきました。作業が終わるとお隣の調理室まで持って行き、みんなで「おねがいします」と野口理紗先生に渡しました。お昼寝から起きて「今日はお外で食べよう」と伝えられると「やったー」と大喜びでウッドデッキへ。みんなで力を合わせて作ったおやつはよりおいしく感じたのか、にこにこで頬張っていました。またみんなでクッキングしようね♪

ちゅうりっぷ組

ぼくたち、わたしたちのアイスクリーム

毎日暑い日が続くこの頃、ちゅうりっぷ組ではアイスクリームの歌が大人気です。「アイスクリームやって！」と先生のピアノに心を踊らせながら歌っています♪

そして、暑さを吹き飛ばそうと言うことでアイスクリームの制作を行いました。説明しているときから「私もやりたい！」「この間スイカのアイス食べた」と言う声が聞こえ、ウキウキな子どもたち。アイスクリーム全体に好きな色を塗って鮮やかなアイスを作ったり、「黄色は

バナナ、赤色はイチゴ、紫色はブドウ！」と言いながら水玉模様のかわいいアイスを作ったり。一人一人がクレヨン感触や色の重なる楽しさを味わっていました。どのアイスもカラフルでおいしそう！個性溢れた魅力的なアイスたちは7月から赤門横のウィンドウに飾りますので、ぜひお子さんと一緒にご覧ください。

晴れたり雨が降ったり、急に暑くなったりと天気移り変わりが大きいこの時期。体調管理に気をつけながら楽しんで過ごしていきたいと思います。

たんぽぽ組

虫、見つけたよ！

暑い日が続くようになり、園庭ではたくさんの虫が姿を見せてくれます。興味津々で、図鑑で調べてみたり、さまざまな葉っぱを虫かごに入れて、どの葉っぱを食べるか試してみたり…夢中になっています。

先日、ウメの木の下に色鮮やかな幼虫を見つけ、「きっときれいなチョウチョウになること間違いない」と、張り切ってお世話を始めました。図鑑を見ても何の幼虫かなかなかわからずにいたのですが、クラスの保護者の方にご協力をいただき、ガの幼虫であることがわかりました。きれいなチョウチョウを期待していた子どもたちがどんな反応をするかな…とドキドキしていたのですが、「ようやく正体がわかったぞ！」と嬉しそうでした。

「エサは足りているかな？土は湿っているかな？」と、虫が生き続けられるように日々考え、取り組んでいる子どもたち。親しみをもち、大切にしようとする気持ちを感じます。身近な生き物とのふれあいの中で、命があることに気づいたり、大切にしたりできるように見守っていきたいと思っています。

すみれ組

野菜の発見、楽しい調理！

4月に買いに行った野菜の苗がみるみるうちに大きくなり、かわいい実がチラホラできています。毎朝子どもたちは登園すると、クラスに行く前に真っ先に野菜の鉢に向かいます。真剣な表情でじっくり観察したり、触ったりしています。そして必ず聞こえてくる「先生、ここ見て！」とっても嬉しそうな顔で野菜の発見を伝えにきます。

最初に実ができたのはナスとピーマンでした。みんなでどのように食べようか相談したところ「カレー味にして食べたい」とのことでした。次の日、早速調理をしました。収穫した野菜を一人ずつ手にして「おいしそうな匂いがする」と言う子がいれば、顔をしかめる子も。切った断面を見て色の違いに気づいたり、種がたくさんあることに驚いたり。子どもたちの発見は無限大！とっても楽しい調理でした。

昼食の時間になると「ナスは苦手…」と言っていた子が「ちょっと苦いけどおいしい」と嬉しそうに報告してくれました。みんなで育てて調理すると、なんだか嬉しいね！

どんぐり組

活動を紹介

最近の新たなどんぐり組での活動。①ゴロゴロゴザ劇場…午睡をしない年中長組の子ども、まずはゴザの上でゴロゴロしながら、長めのお話を聞きます。プール活動や、暑い中での活動の疲れをとって、リフレッシュする時間となっています。②水曜日のお出かけ。…昼食後、公園へのお散歩。公園の遊具で遊んだり、草原の虫や植物をじっくり観察したり、山を駆け登って探検したりと普段とは違った遊びを存分に楽しみます。日々の遊びに新鮮な風を吹き込んでくれます。③拭き拭きタイム…週に一度、お昼寝をしない年中長組で、普段遊ぶおもちゃを拭いて手入れしています。さまざまなおもちゃで遊ぶどんぐり組。自分たちで使っているおもちゃを大事にしていこうと頑張っています。④みんなでの遊び…ビーチバレーや、かくれんぼ、

宝探しなど、年長組発信の遊びが盛り上がっています。ルールもみんなで確認しながら、楽しいアイデアも出てきます。暑さが厳しくなると、2階ホールで過ごす時間が多くなりますが、さまざまな活動を楽しんでいるどんぐり組です。

わが家のまど



(249) 我が家のパワースポット

主幹教諭 山岡 理恵

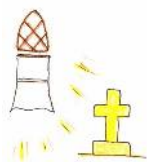


我が家は夫以外の全員が同じ美容室に行っています。以前私が行っていた美容室の美容師さんが独立して始めた美容室。始めた頃はアシスタントさんと二人だけの美容室でした。だんだんとお客さんが増え、スタッフも増えて、3年前には店舗拡張のためリニューアルしました。店の内装はスタッフ皆さんの手作りです。ちなみにスタッフは女性のみ。セメントをこねたり、ペンキを塗ったり、資材を運んだり…。気持ちよいほどたくましく、楽しもうという姿勢にあふれている美容室です。技術や知識を磨いていることも伝わってきますし、お客さんのこ

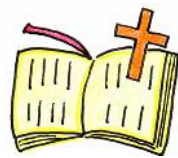
うしてほしい！という思いを見事に汲みとって応えてくれる我が家が絶対の信頼をおく美容室です。

この美容室に一番はまっているのは長男です。この美容室のことを「俺にとってのアミューズメントパーク！」と言っている彼。カットだけでなく、エステも利用。年末の福袋は必ず予約。福袋に入っていたお高いドライヤーや頭皮マッサージ器も自分専用で毎日使っています。店のチラシの“お客様の声”にも登場。店の人たちとバイクでツーリングに行ったり、心の友と呼ぶスタッフさんにお悩み相談をしたり。髪のことにとどまらず美容室で120%リフレッシュさせてもらっている感じです。

長男だけでなく、成人式や卒業式、ライブのためのヘアセットやメイクまで、お世話になっている美容室。全員をリフレッシュさせてくれるパワースポットに感謝です！



今月の聖書のおはなし



☆ 7月1日 「よいサマリア人のたとえ」

ルカによる福音書 10章 25～37

イエス様が律法家に語られた例え話です。ある旅人が強盗に襲われ、道端に倒れていました。そこへ祭司が通りかかりましたが、そのまま行ってしまいました。次にレビ人がやってきましたが、同じように立ち去って行きました。次にやってきたサマリア人は、応急処置をしてロバに乗せて宿屋に連れて行き、介抱しました。そして次の日、宿屋の主人に銀貨を渡し、不足なら帰りに支払うと言って世話を頼んで立ち去りました。

イエス様は、この3人の中で誰が旅人の隣人かと尋ね、律法家は、親切なサマリア人だと答えました。イエス様「行ってあなたも同じようにしなさい。そうすれば永遠の命をいただくことができる」と言われました。

☆ 7月8日 「重い皮膚病を患った人をいやす」

マタイによる福音書8章1～4

イエス様の話を聞きたいと大勢の人々が集まってきました。すると、一人の重い皮膚病を患っている人がイエス様に近寄り、「あなたの御心ならば、私の病気を治すことができるはずで」と言いました。イエス様は手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は治りました。そして「だれにも話さないように気をつけなさい。祭司に体を見せ、供え物を献げて、治ったことを人々に証明しなさい」と言われました。